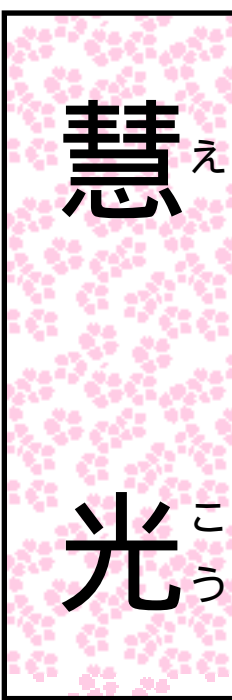




五角形の花弁が愛らしい(花名不明)(8月8日・藤岡家にて)



金光寺寺報
第146号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

確かな一足一足が 念仏によって 与えられてくる (宮戸道雄)

この言葉は、宮戸道雄著の『仏に会うということ』に出てきます。

人は誰でも幸福を求めて生きています。どうすれば人間は幸福になれるだろうか、どうしたら幸福を手に入れることができるかを考えます。ところが、人生は自分の思いどおりにはいきません。思いどおりにいかないところに、人生の苦悩が起こってきます。苦悩の起こる人生を根本的に克服しようとするれば、自分の殻だけに閉じこもるのではなく、念仏の教えに導かれながら、心の持ち方を転換することが大切なのではないでしょうか。

法然聖人は、念仏を称える人が救われていく理由を、「仏の仏願がそうになっているから」と言い、「念仏するものは必ず往生させる」と第十八願に誓われているからだ、と言われるのです。こうして、善導大師の教えを受けて、迷いを離れて覚り

に到る道として、専修念仏の教えを説いていかれました。

専修念仏の教えとは、「阿弥陀仏の本願は、もともと凡夫を救うために誓われたものであるから、本願を信じ、念仏を称えるだけで救われる」というものでした。念仏の道は、煩悩に振り回されている凡夫を救うためのものです。また、浄土に生まれて覚りの智慧をいただく道です。煩悩具足の凡夫という自覚は、立派な人間ではないように受け取られがちですが、阿弥陀さまの摂取の光明に包まれ、あらゆる恵みに感謝し、社会のさまざまな問題に積極的に関わっていく生き方へと蘇っていくものです。このような生き方が、念仏によって与えられる人生であります。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

金光寺よろずコーナー

8月14日、境内地で盆踊り大会を行います。老若男女のご来場をお待ちしております。ご家族お誘いあわせの上お出てください。例年どおり、出店、くじ引き大会が行われるようです。



7月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。
2013年 7月30日 寂 満56歳
門川町 奈 須 壽 長 様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp>
8月8日現在 アクセス数 48,481人

体力には自信があるのですが、今日(七日)朝から体調不良(嘔吐下痢)で食事もできず、ゴロゴロしながら、テレビはなまるマーケットを見ています。残暑お見舞いの書き方で誤りがあるのを探してくださいというのがあります。今日が立秋で今日から暑中お見舞いではなく残暑お見舞いになることにならざるを得ないです。普段あわせてのコーナーでした。普段何気なく使っている言い回しが誤りでした。「まだまだ暑い日が続きます。お体ご自愛ください」この中に誤りがあるのです。お分かりですか。正しくは「まだまだ暑い日が続きます。ご自愛ください」です。自愛の意味は自分で自分の身をたいせつにすること。つまり、お体ご自愛くださいとは「頭痛が痛い」と同じように意味が重複する使い方になります。ふーんと思うと同時に今日の自分にぴったりの言葉だと思つたことでした。下痢を早く治すよう自愛したいと思つた(夕方)調子は最悪です。(住職 松井卓郎)

仏教用語豆辞典

居士

何事にも一言意見を述べない。と気の済まない性質の人を「一言居士」といいます。また、浄土真宗以外で、法名の下に「居士」と書かれた位牌を見るのがあります。「居士」は古代インド語でグ

リハバティといい「家の主人」の意味で、資産家の家長、長者家主、在家などと訳します。インドの諸都市では、資産家が有力な階級だったようで、大乘仏教では、このような居士たちが大活躍しています。この中でも「維摩経(ゆいまきよう)」の主人公である維摩居士は有名です。彼は在家信者として大変識見にすぐれ、仏弟子の中でも彼にたしなめられた人も多かったといわれています。居士は在家でも仏道修行する

男子の敬称となりました。中国では、学徳が高く土官してない人のことで、隠者や居士(しよし)ともいいます。一言居士は、「維摩居士」からきた言葉だとか、「一言決(こじ)る」からきたなどの説があります。やはり、博学でなくては勤まらないようです。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇ページから)

住職ひとりごと

同級生の往生に思う

「異常気象」と言われるようになって久しいのですが、それにしては七月の気温は異常でした。真夏日(気温 三十以上)が随分続いたような気がします。

例年ですと、本堂は開け放すと風が入り涼しさを感じることができのですが、今年はそれがありません。夜まで開け放しているのですが、午後十時前に戸締りをする頃になっても気温があまり下がらず、戸締りしたくない気分です。

お盆を過ぎると気温が下がり涼しくなる鞍岡ですが、どうなるのでしょうか。

本誌四ページに書いていますが、七月三十日、門川町に住む

同級生が亡くなりました。

妹さんからの電話で、「兄が本日亡くなりました。いずれは門川町のお寺さんにお世話になると思いますが、ご住職が同級生なので、遠路大変でしょうか。お通夜・お葬式をとめていただけませんか」とお言葉をいただき、「是非お願いします」と答えたことでした。

平成二十三年七月十七日、息子さん、妹さんと三人でお父さんの十七回忌に当山に仏参されました。中学時代と変わらぬ彼と思ひ出話をしたことでした。

それから二年、あまりに急な往生にびっくりしました。七月三十一日、お通夜の法要前に、奥さま、妹さんと話をさせていただきました。昨年十二月末、

食道がんの手術をしました。手術は十一時間に及びましたが、無事に病巣の摘出は終わりました。ただ、大手術で体力が弱っており、術後の抗がん治療がすぐできず、再び病魔に襲われ、昨日の往生になりました。

お通夜、お葬式が終わり、茶



毘にふされたのですが、奥さまは点火のスイッチを押すことができず、お兄さんがスイッチを押されました。永年、苦楽を共にされ、急なお別れを受け入れることができなかったのです。火葬が終わり、ご自宅で遺骨と初七日のお参りも終わり、おいとまする時、奥さまに「悲しみ癒えるのはこれからの一日です」と申しましたが、奥さまは「まだ、死別の実感がありません。今から、病院に行くような気がします」と話されました。

愛別離苦の苦しみを感じる日々がこれから訪れます。どうぞ、その悲しみに寄り添ってくださり、早く立ち直れと願ひ、はたらき続けてくださる阿弥陀さまが、その阿弥陀さまのもとに救われていかれたご主人さまが、側にいらつしやると思えるお育てを愛別離苦の苦しみと一緒に感じいただく日々となればと思ふことです。

法語の世界

原文

前々住上人(蓮如)南殿にて、存覚御作分の聖教と不審なる所の候ふを、いかがとて、兼縁、前々住上人へ御目にかけれ候へば、仰せられ候ふ。名人のせられ候ふ物をばそのままにて置くことなり。これが名譽なりと仰せられ候ふなり。

(蓮如上人御一代記聞書 百五十八)

現代語訳

蓮悟さまが、蓮如上人のおられる南殿へおうかがいし、存覚上人の著されたお聖教に少し疑問に思うところがあるのを書き出して、「どういうことでしょうか」と、上人にお見せしました。すると上人は、「名人がお書きになったものは、そのまましておきなさい。こちらの考えが及ばない深い思召しのあるところが、名人の名人たるすべからぬところなのである」と仰せになりました。

仏事お休みのお知らせ

下記の日はお葬式以外の仏事は行いません。ご協力ください。

記

- 8月 24日~25日 私用(大学用務・京都市)
- 9月 7日 私用(高校用務)祭会
- 8日 鞍岡中学校体育祭
- 22日 鞍岡小学校運動会
- 23日 秋季彼岸会法要
- 10月 26日 午後~27日 九州地区仏教壮年会(宮崎市)

二〇一三(平成二十五)年秋季彼岸会法要

期日 九月二十三日(月) 午前十時

勤行 正信念仏偈(草譜) 念仏和讃(六首引き)

持参品 念珠・門徒式章・経本・筆記用具

その他 彼岸会法要は金光寺仏教婦人会の例会です。仏教婦人会会員の皆さんの法要ご参詣をお願いいたします。また、一般門信徒の皆さんのご参詣もお待ちしております。